



トレースについて

この章では Cisco Unified Serviceability トレースについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [トレースについて \(P.6-2\)](#)
- [トレースの設定 \(P.6-2\)](#)
- [トラブルシューティング トレースの設定値 \(P.6-3\)](#)
- [トレース収集 \(P.6-3\)](#)
- [トレース設定および収集のチェックリスト \(P.6-4\)](#)
- [関連情報の参照先 \(P.6-5\)](#)

トレースについて

Cisco Unified Serviceability には、音声アプリケーションに関する問題のトラブルシューティングを支援するトレース ツールが用意されています。Cisco Unified Serviceability は、System Diagnostic Interface (SDI; システム診断インターフェイス) トレースおよび Log4J トレース (Java アプリケーション用) をサポートします。

トレースする情報のレベル、および各トレース ファイルに格納する情報のタイプを指定するには、[Trace Configuration] ウィンドウを使用します。

[Alarm Configuration] ウィンドウでは、SDI トレース ログ ファイルなどの各ロケーションに、アラームを転送できます。転送する場合は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool で、アラートに関するトレースを設定できます。

さまざまなサービスについて、トレース ファイルに格納する情報を設定した後は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のトレース収集とログ集中管理オプションを使用して、トレース ファイルを収集して表示できます。

トレースの設定

Cisco Unified Serviceability に表示される任意の機能サービスまたはネットワーク サービスのトレース パラメータを設定できます。問題のトラブルシューティングのためにトレースするパラメータを指定するには、[Trace Configuration] ウィンドウを使用します。

トレースする情報のレベル (デバッグ レベル)、トレースする情報 (トレース フィールド)、およびトレース ファイルに関する情報 (サービスごとのファイル数、ファイルのサイズ、データがトレース ファイルに保存されている時間など) を設定できます。

独自のトレース フィールドを選択しないで、事前設定のトラブルシューティング トレース設定値を使用する場合は、[Troubleshooting Trace] ウィンドウを使用します。トラブルシューティング トレースの詳細については、P.6-3 の「[トラブルシューティング トレースの設定値](#)」を参照してください。

さまざまなサービスについて、トレース ファイルに格納する情報を設定した後は、RTMT のトレース収集とログ集中管理オプションを使用して、トレース ファイルを収集できます。トレース収集の詳細については、P.6-3 の「[トレース収集](#)」を参照してください。

トラブルシューティング トレースの設定値

[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象である Cisco Unified Serviceability サービスを選択できます。このウィンドウでは、単一サービスまたは複数サービスを選択し、これらのサービスのトレース設定値を、事前設定のトレース設定値に変更することができます。ウィンドウでは、非アクティブのサービスの横には N/A が表示されます。



(注)

サービスの事前設定のトラブルシューティング トレース設定には、SDI および Log4j トレース設定などがあります。トラブルシューティング トレース設定を適用する前に、システムによって元のトレース設定がバックアップされます。トラブルシューティング トレース設定をリセットすると、元のトレース設定が復元されます。

サービスにトラブルシューティング トレース設定を適用した後に [Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウを開くと、トラブルシューティング用に設定したサービスがチェックマークを付けられて表示されます。[Troubleshooting Trace Settings] ウィンドウで、トレース設定を元の設定にリセットできます。

[Troubleshooting Trace Setting] をサービスに適用すると、[Trace Configuration] ウィンドウに、指定のサービスにトラブルシューティング トレースが設定されたことを示すメッセージが表示されます。サービスの設定をリセットする場合は、[Related Links] ドロップダウン リスト ボックスから、[Troubleshooting Trace Settings] オプションを選択できます。指定のサービスについて、[Trace Configuration] ウィンドウにはすべての設定が読み取り専用として表示されます。ただし、トレース出力設定の一部のパラメータ (Maximum No. of Files など) は除きます。このパラメータは、トラブルシューティング トレース設定を適用した後でも変更できます。

トレース収集

さまざまなサービス トレースまたは他のログ ファイルを収集、表示、および圧縮するには、Trace and Log Central (Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool のオプション) を使用します。Trace and Log Central オプションを使用すると、SDL/SDI トレース、アプリケーションログ、システム ログ (イベント表示アプリケーション、セキュリティ、システム ログなど)、およびクラッシュ ダンプ ファイルを収集できます。



ヒント

CSA ログを収集するには、RTMT の [Select System Logs] タブの [Cisco Security Agent] チェックボックスをオンにします。ログインおよびログアウトするユーザに関する情報が格納されたユーザ ログにアクセスするには、[Select System Logs] タブの [Security Logs] チェックボックスをオンにします。



ヒント

収集されたトレース ファイルの表示にはメモ帳を使用しないでください。

トレース収集の詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection*』を参照してください。

トレース設定および収集のチェックリスト

表 6-1 は、Cisco Unified Serviceability で機能サービスおよびネットワーク サービスのトレースを設定および収集する手順の概要を示しています。

表 6-1 トレース設定および収集のチェックリスト

設定手順	関連手順と項目
ステップ 1 Cisco Unity Connection の管理で [システム設定 (System Settings)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] を選択して、トレースに使用可能なデバイスの最大数を設定します。[Max Number of Device Level Trace] フィールドに値を入力します。デフォルトでは、12 が指定されます。	Cisco Unity Connection システム アドミニストレーションガイド
ステップ 2 トレースを収集する対象のサービスのトレース設定値を設定します。 トレース設定値を設定するには、デバッグ レベルおよびトレース フィールドを選択して、トレースに組み込む情報を選択します。 サービスに対して事前設定トレースを実行する場合は、それらのサービスに対してトラブルシューティング トレースを設定します。	<ul style="list-style-type: none"> トレースの設定 (P.7-1) トラブルシューティング トレースの設定 (P.8-1)
ステップ 3 ローカル PC に Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool をインストールします。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 4 モニタ対象トレース ファイルに、指定された検索ストリングが存在するときにアラームが生成されるようにするには、RTMT の LogFileSearchStringFound アラートをイネーブルにします。 LogFileSearchStringFound アラームは、LpmTctCatalog にあります (Cisco Unified Serviceability で、[Alarms] > [Definitions] を選択します。[Find alarms where] ドロップダウンリストボックスの [System Alarm Catalog] を選択します。[Equals] ドロップダウンリストボックスの [LpmTctCatalog] を選択します)。	<ul style="list-style-type: none"> Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection アラーム定義の表示、およびユーザ定義記述の追加 (P.5-2)
ステップ 5 CriticalServiceDownand CodeYellow などのアラートのトレースを自動的に取り込む場合は、RTMT で特定のアラートに対する [Set Alert/Properties] ダイアログボックスの [Enable Trace Download] チェックボックスをオンにします。ダウンロードが発生する頻度を設定します。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 6 トレースを収集します。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 7 適切なビューアでログ ファイルを表示します。	Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
ステップ 8 トラブルシューティング トレースをイネーブルにした場合は、元の設定が復元されるように、トレース設定サービスをリセットします。  (注) トラブルシューティング トレースを長時間イネーブルにすると、トレース ファイルのサイズが大きくなり、サービスのパフォーマンスに影響することがあります。	トラブルシューティング トレースの設定 (P.8-1)

関連情報の参照先

関連項目

- [アラームについて \(P.3-1\)](#)
- [アラーム設定のチェックリスト \(P.3-3\)](#)
- [トラブルシューティング トレースの設定 \(P.8-1\)](#)
- *Real-Time Monitoring Tool* アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection
- *Cisco Unity Connection* サービスアビリティ アドミニストレーションガイド
- *Cisco Unity Connection* システム アドミニストレーションガイド

